

アジアの三手話言語間の単純他動詞節の語順比較

フェリックス・シ

(香港中文大学 [中国])

要旨

アメリカ手話の構成素の語順に関する先行研究では、単純節の構成素の基本語順は、主語と目的語の指示対象の可逆性 (Fischer 1974, 1975) のような意味的な要素、動詞の一致の存在のような形態的な要素 (Kegl 1976, 1977)、あるいは述語における目的語の類別詞の使用 (Liddell 1980)、また文法的な目的語のトピック化のような統語的操作 (Fischer 1974, Padden 1988) などによって交替し得ると示唆されている。その後の他の手話言語についての研究 (Volterra et al. 1984, Johnston et al. 2007 など) は、上述の要素の全てというよりは幾つかの要素について扱っている。従って類型論的には、他の手話言語を通じて、語順の現象を説明する場合にも、これらの要素の関与が妥当であり等しく重要であるのかどうかは明らかにされていない。

本発表では、香港手話、ジャカルタ手話、スリランカ手話の基本構成素の語順を提示し、上述の要素がこの基本語順を変えうるか、変えらばどの程度かということをも明らかにする。これらの3つの手話言語のデータは、主として母語話者もしくは母語話者に近い話者の、自然発話とエリシテーションを行った文による。これまでに収集したデータによれば、香港手話とジャカルタ手話においては SVO 語順が優勢であるのに対して、スリランカ手話では SOV 語順が強く好まれることが示唆される。これに加えて、香港手話、ジャカルタ手話とスリランカ手話の間には、どの程度異なる語順が許されるかについても差異が見られた。例えば、主語と目的語の意味的な可逆性については、異なる語順を許した場合は、香港手話とジャカルタ手話の方がスリランカ手話よりも影響が大きかった。さらには、香港手話とジャカルタ手話では SVO (通常語順)、SOV と OSV 語順が動詞の一致が存在する場合には許容された。しかしスリランカ手話では、同様の形態的な動詞の一致が明らかに誰が何を誰に行うかを示していても、SOV が依然として強く好まれ、スリランカ手話の話者には、OSV という連続は、眉毛を上げるか他の文とはプロソディーを区別することによって O がはっきりとマークされる時にのみ許容された。類別詞の使用も、香港手話とジャカルタ手話においてはスリランカ手話よりも語順の変化に重要な役割を果たした。さらに、動詞のタイプによる差異と個人差も観察された。

本発表が示した事実は、手話言語は一般に考えられているよりも実際にははるかに多様であることを示唆しており、手話言語を通じて構成素の語順のパターンがどのように異なるのか、もしくは似通うのかを明らかにするためにはさらなる研究が必ず必要とされる場所である。

参考文献

- Fischer, Susan. 1974. Sign language and linguistic universals. In Nicolas Ruwet and Christian Rohrer (eds). *Actes du Colloque Franco-Allemand De Grammaire Transformationale, Band II: Étude De Semantiques et Autres*. Tübingen: Niemeyer, 187–204.
- Fischer, Susan. 1975. Influences on word order change in American Sign Language. In Charles Li (ed). *Word Order and Word Order Change*. Austin TX: University of Texas Press, 3–25.
- Kegl, Judy. 1976. *Relational grammar and American Sign Language*. Unpublished manuscript, Cambridge, MA: MIT.
- Kegl, Judy. 1977. *ASL syntax: Research in progress and proposed research*. Unpublished manuscript, Cambridge, MA: MIT.
- Johnston, T., V. Myriam, S. Adam and L. Lorraine. 2007. Real data are messy: Considering cross-linguistic analysis of constituent ordering in Auslan, VGT, and ISL. In Pamela Perniss, Roland Pfau and Markus Steinbach (eds). *Visible Variation: Comparative Studies on Sign Language Structure*. Berlin, New York: Mouton De Gruyter, pp.163-206.
- Liddell, Scott. 1980. *American Sign Language Syntax*. The Hague: Mouton.
- Padden, Carol. 1983/1988. *Interaction of morphology and syntax in American Sign Language*. Ph.D. Dissertation, University of California, San Diego. (Published as Outstanding dissertations in Linguistics, Garland Series. New York, London: Garland Publishing, Inc.)
- Volterra, V., A. Laudanna, S. Corazza, E. Radutsky, and F. Natale. 1984. Italian Sign Language: The order of elements in the declarative sentence. In F. Loncke, P. Boyes-Braem and Y. Lebrun (eds). *Recent Research on European Sign Language*. Lisse: Swets and Zeitlinger, 19-48.